

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（活き活き東京湾研究会）

日時：2022年5月17日（火）9：30-12：30 干潮時刻 11：28 天気 曇時々雨

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

今年は新型コロナの感染が収まりつつあるタイミングでしたが、平日であり潮干狩り場は結構空いておりました。

例年、岸から800mまで、一昨年はアカエイ対応で潮干狩り柵内250mまで、昨年は400mまで、今年は470mまでの範囲の観察地点（下図の赤印、50~100m間隔）で熊手、手網等を用いて底生動物の状況を確認しました。観測ラインはアサリ放流がない囲い柵外側に設置しています。

潮干狩り場の係員によれば、昨年と今年、ハマグリは撒いていない。岸寄りの養貝場のアサリ（殻が黒っぽい）を撒いているとのことでした。入場料は1800円（制限重量：2kg）でした。

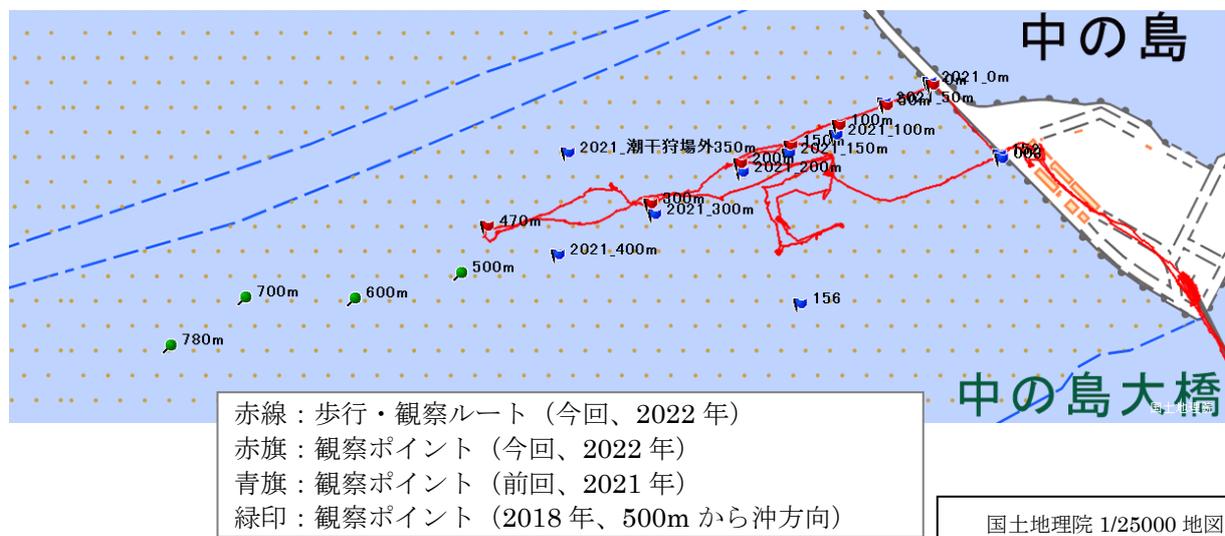
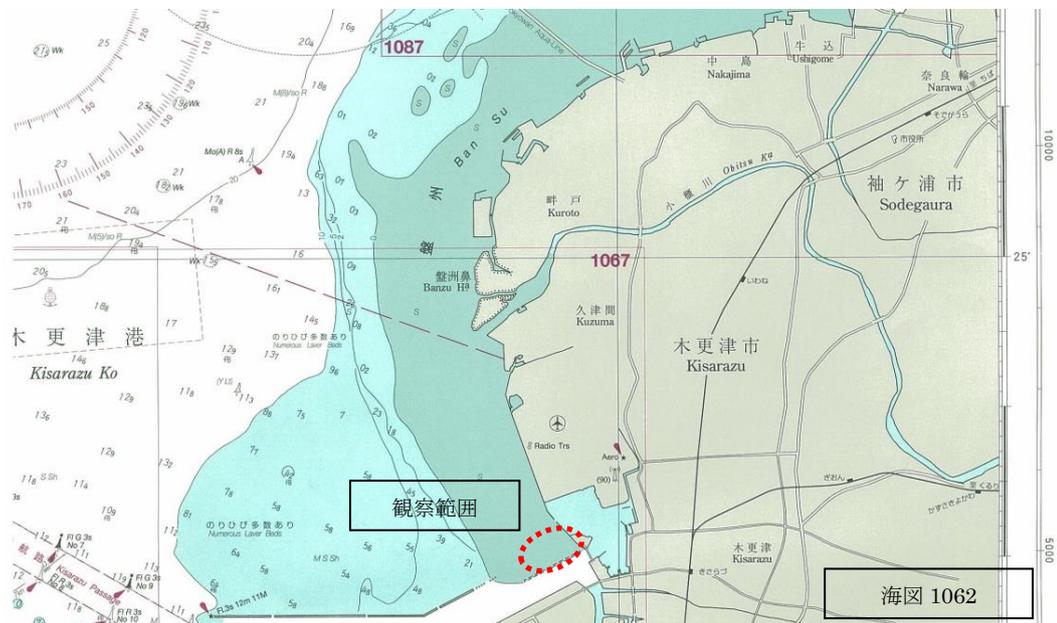


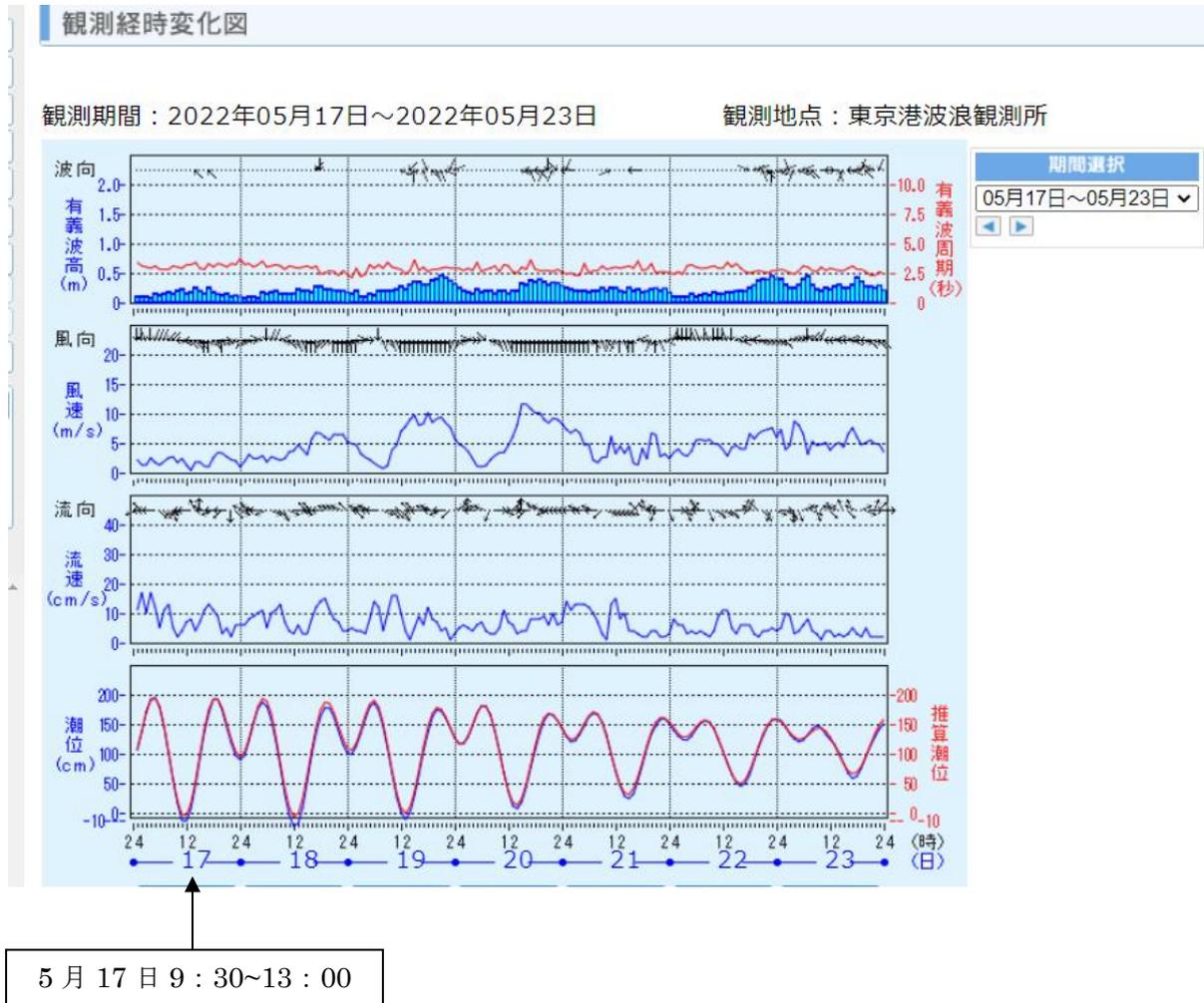
図-1 観察の範囲と観察ルート（拡大図別添）

【当日の実測潮位と気象海象の状況】

例年、観察日は気象庁の潮位表を確認して潮がよく引く大潮期に設定します。

当日の干潮時刻（木更津）は、11：28 予定でした。潮位実測データ（東京都港湾局）は図-2に示したとおりであり、推算潮位で見込まれたのと概ね同程度に潮が引いておりました。

（実測データは東京港内で木更津は多少離れておりますが、その傾向は概ね同様でしょう。）



<http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/tokyop/topframe.htm>

観測期間：2022年05月17日～2022年05月23日 観測地点：東京港波浪観測所

図-2 実測潮位等の経時変化（東京都港湾局の観測データ）

【概況】アサリは、潮干狩り場の囲い柵内では2~3cmの殻が黒っぽいアサリが比較的多く、囲い柵の外側はアサリが全般に少ない傾向でした。当然ですが、漁業組合が放流しないと少ないということです。アサリの稚貝は、200mまでは見えませんでした。300m、470m地点で確認できました。ハマグリはごくまれですが確認しました。アラムシロガイ、キサゴ類は結構いました。シオフキガイ、バカガイ、ツメタガイ、アカニシも少数ですが確認できました。海草のコアマモは岸から130mくらいからぼつぼつと、300mから沖では群落が確認されました。今回の470mまでの範囲ではアマモは沖寄りの1箇所でした。底質は砂泥質で、還元状態のところがありませんでした。マメコブシガニ、オサガニ類、エビジャコ、ハゼ科の稚魚がいて、ボラの稚魚が多く群れているのを確認しました。

【干潟の状況】



木更津漁協の潮干狩り場 2022年5月17日9:00



木更津漁協の潮干狩り場 2022年5月17日12:50

【潮干狩り場】入り口には、以前と同様な掲示がありました。金、銀のハマグリ探しは恒例の行事です。「しおひがりじょうの仲間たち！！」は、アサリ、ハマグリ、カガミガイ、アシハラガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニ、ケフサイソガニ、ニホンスナモグリ、アゴハゼ（ダボハゼ）、ヒトデ、クモヒトデとありました。「感染症対策の取り組み」の掲示は3年目となりました。



潮干狩り場は、9:15の時点で一番乗りであったようです。その後、徐々に人が増え、幼稚園児童の参加もありました。小雨混じりの天気でしたが、皆さん楽しんでいました。



入り口付近 9:14



入り口付近 12:29

【見学会の様子】



☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 護岸付近にはアナアオサ、ヨシ等の漂流物はなく、石にはカキ等が付いていました。底質は貝殻が混じる歩きやすい砂地で、硫化水素集（卵の腐ったような臭い）は、あまりしませんでした。生きた貝類は見えませんでした。



【岸から 50m 付近】 砂泥質でクロムシ（タマシキゴカイ）の糞塊が多くみられました。アラムシロガイを随所で見かけました。アサリとキサゴもいましたが、アサリ稚貝は見えませんでした。



【岸から 100m 付近 (干潮時刻 2 時間前)】アサリ、シオフキガイ、キサゴ、アラムシロガイの他、オサガニ類がいました。ここでもアサリの稚貝が見えませんでした。



岸から 100m (岸方向)



岸から 100m (沖方向)



【岸から 100-150mの間】

・干潟底質表面をタモで曳くと、エビジャコがいました。



・130m あたりでコアマモの繁茂がありました。



【岸から 150m 付近】最干潮の 1 時間 40 分前、潮の引きが足りずに沖方向は水面となっていました。アサリなど貝類は少なく、ここでもアサリ稚貝は見えませんでした。干潟底質表面をタモで曳くと、ハゼ類がいました。



【潮干狩り場、囲い柵内（組合のアサリ放流範囲）の様子】岸から 150m まで確認した時点で、沖方向が水面下のために、潮干狩り場の囲い柵の内側にて、生物状況と潮干狩り客の状況を見ました。たまたまですが、岸から 200m くらいのところで、ハマグリが 1 個だけありました。ツメタガイ、カガミガイ（ホンビノス?）もいました。アサリは小さいものが多かったです。



アサリ（殻が黒っぽいのは、組合が放流した可能性が高い）

ハマグリ

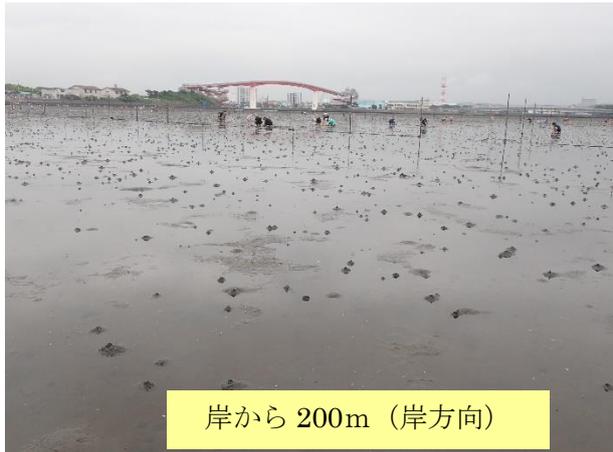


ツメタガイ



カガミガイ（ホンビノス?）

【岸から 200m】アサリはいましたが稚貝は見えませんでした。



岸から 200m (岸方向)

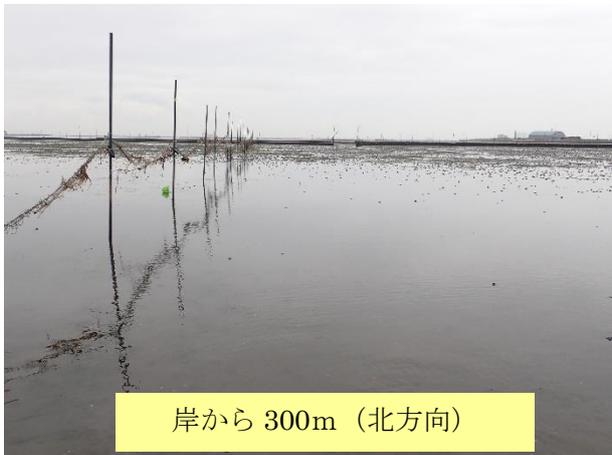


岸から 200m (沖方向) 11:09



底質のふるいがけ試料

【岸から 300m】 ほぼ最干潮時刻なのですが、この辺りは干上がっていませんでした。北方向には、干出している場所が見えます。アサリは少々ありました。この辺りからコアマモの群落が見えます。



【岸から 470m】 観測地点は、観測ラインよりもやや北寄りのコアマモの群落に囲まれている場所にしました。アサリ稚貝が比較的多く見えました。貝殻の少ない砂泥質です。



岸から 470m (岸方向)



岸から 470m (沖方向)



底質のふるいがけ試料



アサリの稚貝、比較的多い

このあたりには、バカガイがいました。ツバサゴカイの棲管がありました。小型のアマモと思われるのですが、普段、干潟縁辺部（岸から 800m 以上沖合）で見るアマモに較べて小型の海草がコアマモ群落に混在していました。海藻類では、ワカメ、葉状の紅藻類（フダラク？）、アナアオサがありました。



バカガイ



ツバサゴカイの棲管



コアマモ



アマモ（小型、コアマモ群落に混在）



ワカメ



葉状の紅藻類



アナアオサ

【潮干狩り漁獲物】

アサリとハマグリ 1 個で、2kg の漁獲です。2kg となるように、小粒のアサリも持ち帰りました。
(基本的には殻長 2cm 以上のアサリです。)



以上です。

【拡大図別添】 図-1 観察の範囲と観察ルート資料

赤線：歩行・観察ルート（今回、2022年）

赤旗：観察ポイント（今回、2022年）

青旗：観察ポイント（前回、2021年）

緑印：観察ポイント（2018年、500mから沖方向）

